

ゆたか倶楽部 よもやま話

vol. 27

弊社の人気クルーズの一つである「リバー・ダッチェスで航く東西ヨーロッパ大横断グランドクルーズ」には、実は私は一度も参加したことがありません。約1か月のロングクルーズなので、それほどの長期間、社を空けておくことができないというのがあります。信頼の置けるスタッフたちがいるので任せられるというのが一番の理由です。今回は添乗員の石川恭子さんの視点で、このクルーズの魅力をご紹介しますと思います。

◇

石川さんに東西リバークルーズに初めて添乗してもらったのは、2012年頃です。石川さんはロングクルーズなので、ベテラン添乗員さんが行くツアーだと思っていたそう。この話を依頼した時とても喜んでくれました。

「一番の魅力は、一度のクルーズでヨーロッパという文明の十字路を深く味わえること。ドナウやラインという大河とともに、人がどんな生活を営んでいたのか、街がどんな風に発達してきたのか、船からの風景をぼーっと眺め

ているだけでも分かる」とは石川さんの言葉です。弊社では、それまで南米一周クルーズや南極半島クルーズなど、どちらかというと、一風変わっているクルーズに添乗してもらったことが多かった。石川さんには物足りなかつたかな？ と思いましたが、持ち前の好奇心で、東西クルーズ中のレポートを日記式に細かくまとめてくれました。スタッフがお客様にこの東西ヨーロッパクルーズをご紹介しますのに、とても参考になっています。

東西ヨーロッパクルーズは約1ヶ月を一つの船で巡るので、「チェックインやチェックアウトが1回だけだから、添乗員はラクだねと言われる」こともあるのだそう。しかし、添乗員の仕事はそれだけではありません。1ヶ月という長期間なので、時には夫婦喧嘩してしまうお客様もいらっしゃるでしょう。また賑やさが好きな方もいれば、静かに過ごしたい方もいらっしゃるでしょう。石川さんは、お客様一人一人をよく見て、時には人間関係に色々あったとしても、席など配慮することでクルーズそのものを満喫していただけるよう努めてくれます。

「ゆたか倶楽部のクルーズは、寄港地観光込みのツアーの料金設定をしていることが多いので、他社よりも高いと思う方もいるかもしれませんが、でも、現地でひとつずつ観光を頼む手間と時間を考えると、お得感が大きいと思っています。

ゆたか倶楽部のお客様は、船が好きな方はもちろん、ダンスが好きな方も多いです。長期クルーズならではの他社とは違う試みに、お客様がワクワクされるように、添乗員の私たちもワクワクしています」。

石川さんがリバークルーズならではの、大型客船と違うメリットとデメリットを挙げてくれましたので、ご紹介します。

〈メリット〉

- ① お客様、スタッフも含め、船内にいる全ての人が家族のようになれるアットホームさがある。
- ② 窓から流れる景色は、誰かのお庭を眺めているような感じ。自転車に乗っている少年たち、川辺で話をする老人たち、朝日や夕日の美しさ、間近で人の生活の息吹を感じられる。大海を航く船とは大きく違う魅力の一つ。
- ③ 船内が大型客船と違って平面的でそれほど広くないので、足腰が心配な方でも過ごしやすい。
- ④ 河川なので船の揺れがない。

⑤ 水門の面白さがある。

⑥ 食事の際のワイン。コースはヨーロッパ有数のワイン産地を通るので、毎日お勧めのワインが変わることもある。それぞれの寄港地で仕入れられたワインを通じて、現地の食文化を身近に味わえる。

〈デメリット〉

- ① 友人同士で喧嘩などをしてしまうと、船内で移動できるスペースが限られているので、逃げ場所がない。
- ② 大型客船より、船内の催しのバラエティが少ない。
- ③ 長すぎて時間を持て余す人も。
- ④ 船は出港時間が決まっているので、船着き場から遠い内陸の地まで足を延ばすことがなかなかできない。

◇

最後に、石川さんからのメッセージをご紹介します。

「大型客船と違い、東西ヨーロッパ大横断クルーズはナースは常駐していてもドクターが不在なので、常備薬は必需品です。また、船内は欧米人向けに冷房がきついので、夏でも羽織りものが必須です。リバークルーズならではの特徴として、朝食に日本食のお粥を出してくれることもあります。お煎餅などはアフタヌーンティーの時間でもなかなか出てきませんので、和菓子は恋しくなるかもしれません！」